

あこがれになった

平成 26 1. 12

専業主婦



山田 昌弘

昨年12月中旬、内閣府が「男女共同参画社会に関する世論調査」の結果を発表し、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」との考えに賛成する人が51・6%と、2009年調査しているものにとっては、前回の調査から10・3%増えたことが話題になった。1992年の調査で60・1%を記録して以来、毎回減少しているという声もよく聞くよう

日本の雇用システムに原因

やまだ・まぎひろ 57年東京都生まれ。専門は家族社会学。著書に「少子社会日本」なぜ若者は保守化するのかなど多数。

たが、今回、初めて増加に転じた。特に、20代の若い年代で賛成割合の増加が著しい。働く既婚女性が増えている

しかし、バブル経済崩壊後、若者をめぐる仕事状況が激変した。92年には、未婚女性の8割は正社員だったのが、2010年には約5割まで減少、非正規労働者が激増した。単純で昇進がないため仕事に希望をもてない彼女たちの望みは、収入の高い男性と結婚して仕事をしなくてもよい専業主婦になることである。

正社員として就職できた未婚女性も大変である。やりがいがあるかもしれないが、世界的に見て異常とも思える長時間労働にさらされている。

になっている。

二十数年前、専業主婦になることが当たり前だった時代には、結婚しても仕事をし続ける女性は、若い人にとってあこがれの的だった。そして、

そもそも日本の雇用システムは無理と考える女性が増えてもは、専業主婦が裏で社員を支え、専業主婦が裏で社員を支える事を前提に設計されている。これでは、結婚して子育て、なれるものではない。現にしながら仕事を続けるのは在、若年男性の収入も不安定

平成 26 1. 12



分からない 3.3%

2012年	賛成 51.6%	反対 45.1%	分からない 3.3%
09	41.3	55.1	3.6
07	44.8	52.1	3.2
04	45.2	48.9	5.9
02	46.9	47.0	6.1
1997	57.8	37.8	4.4
92	60.1	34.0	5.9

※内閣府調査、四捨五入のため合計が100%にならない場合がある
夫は外で働き、妻は家庭を守るべきか

になっている。明治安田福祉研究所の調査では、未婚男性の3分の1は年00万円以下、400万上ある未婚男性はわずか。結婚後も、夫の年収0万円クラスの妻が働き、専業主婦を養って人の生活ができる男性は、に1人くらいしかない。

働くとなると、「長時働の正社員」か「低収入正社員」しか選べない

うゆがんだ状況が専業主向を強めているだけなのとして、専業主婦志向の女性には、親にパラサイトがら、収入が高い男性のを待ち続ける。待ってもないから、未婚率が高まる日本の少子化はますます

のである。(中央大教